

令和4年度 高校生防災アクション 実施報告書

学校名	吉城高等学校
テーマ	自分や地域の人を守るための思考力、判断力、表現力を身につけ、災害時に適切に行動できる高校生を目指す。 防災士資格取得を目指す。(防災アクションリーダー 他)
1 目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・減災力テストのQ10 平均値2.5以上、Q18 平均値1.5以上(5点満点中)にする。 ・2学年対象に「防災士資格取得」チャレンジ。 	
2 自校で取り組んだこと(誰と(誰に)、何をしたかを具体的に)	
<p>(1)「防災について考えよう」・・・2学年全員対象による防災授業</p> <p>a) 減災力テスト(7月13日(水)1回目実施)→2学年全員</p> <p>b) 防災リーダー(2学年代表5名)による防災授業までの取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力者・・・無印良品 高山アスモ店 株式会社洞口土木 ・生徒自身が課題を設定し、設定したテーマについて各自で調べ、体験活動をした。 ・無印良品の設定テーマ <p>ア.「避難所での過ごし方」</p> <p style="padding-left: 20px;">→気を付けるべき点や、用意しておいた方が良い物品について調べる</p> <p>イ.「自分たちでもできる応急処置」</p> <p style="padding-left: 20px;">→人体の損傷時の応急処置だけでなく、災害が起こった時に限られたもので簡易的な防災具を作る方法を知る</p> <p>ウ.「非常食について」</p> <p style="padding-left: 20px;">→「ローリングストック法」について考え、非常食の期限切れをなくす取り組みとして保存食で作るレシピを調べた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式会社洞口土木の設定テーマ <p>エ.「吉城高校の危険箇所と災害備蓄品について」</p> <p style="padding-left: 20px;">→事前にハザードマップを参考に危険箇所を確認する</p> <p style="padding-left: 20px;">→学校周辺の危険箇所を実際に歩いて確認する</p> <p style="padding-left: 20px;">→校舎内にある「災害備蓄品倉庫」の中の備蓄品を確認する</p> <p>c) 防災授業の実施 11月9日(水)6限目実施・・・体育館使用</p> <ol style="list-style-type: none"> ①趣旨説明 ②テーマごとの発表 <ul style="list-style-type: none"> ・(1) b)②ア～エを発表する ③講評(株式会社洞口土木) ④まとめ(防災リーダー) ⑤振り返りシート記入 <p>d) 減災力テスト(2回目)</p> <p>(2) 夏休みの防災体験</p> <p>a) 無印良品の防災グッズを使用し体験した内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遭難時に役立つ鏡の使い方や救助用ホイッスルでの救助の求め方について学ぶ ・アルミ製保温材のシートを身体に巻き付け防寒する方法 ・ブルーシートと棒を二本使用し、簡易テントを作成する方法 ・ライターやマッチを使わない火のおこし方 	

- ・火が点火しやすい木の組み立て方とその火を利用した調理法
 - ・無印が提供した非常食を用いたレトルトカレーの試食
- b) 体験のまとめ・夏休みで学んだことや感じたことを防災授業で発表する準備。

3 自校で取り組んでいく際にあった困難とその解決に向けて努力や工夫したこと

- ・コロナウイルスの影響により、欠席する生徒もいたが、限られたメンバーの中でお互いにカバーしながら充実した活動をする事ができた。
- ・学校行事と重なり計画通りに進まない点もあったが、各自で調べ学習を行い、企業の方に事前に資料についてアドバイスをもらうことにより中身の濃い防災授業をやり遂げることができた。

4 目標に対する成果

- ・減災力テスト（対象 2年：92名）
 - 1回目 全体の平均点51点 ⇒ 2回目 平均点56点
 - Q10:地震直後の対応・・・・・・・・・・(2.5点) → +0.8
 - Q18:災害から命を守る近所づきあい・・(1.5点) → +0.7
- ・全体の平均点が5点上がった。
- ・Q10とQ18の点数が目標を達成することができた。
- ・2月に行われる防災士資格取得に向け現在6名の希望者がいる。(募集継続中)

5 目標に対する今後の課題

- ・今回の減災力テストは、大幅に点数が増加することはみられなかったが、全体にポイントは上がっている。本年度特に防災リーダーは、実際に体験をすることによりただ説明を聞くよりも理解は深まったと考える。予想外に簡易テントの組み立てが難しいことや、キャンプファイヤーの薪の組み立て方にはコツがあることを経験として知ることができた。また、防災について調べる中でただのブルーシートが「木に引っ掛けるだけで簡易テントになる」という新たな発見もできた。そのような発想は普段生活をしている中で、気づくことは難しい。講師をしていただいた企業の方は『生か死か』は『知っているか知らないか』で分岐する」と仰っていた。『知っているか、知らないか。』たったそれだけで自分や自分の周りの人たちの命が左右される。また、知識として知っているだけでなく緊急時にはそれを実行に移していかなければならない。
- ・今回の防災授業はインプットとアウトプットが一体となった活動ができた。学んだことを実践することができ生徒達も災害時を意識しながら取り組めた。緊急時になれば、防災について適切な意思決定をすることは非常に困難である。防災教育を通して、自然災害時適切な判断に基づいた行動選択につながることを期待したい。自他の生命を尊重できるような行動をとるには冷静な判断力と行動力が必要である。周囲の人間と協力して防災をするには様々なリスクを考え、自主的に行動していくことが大切である。「防災アクション」を通して生徒達の防災に対する意識は高まり、有意義な時間となった。今後は、「減災力テスト」をより意識した取り組みを視野に入れていきたい。

6 自校における来年度の取組（本年度の学びをどのように引き継ぐか、または深めるか。）

- ・減災力テストの点数については、さらなる研究を行い点数向上に努めたい。
- ・飛騨市役所の方と密な連携を取り防災の必要性を全校生徒に示していきたい。
- ・来年度も防災士資格取得については、積極的に受講するよう早い段階からPR活動を行っていききたい。
- ・生徒が防災について主体的に参加できる場を設けていきたい。その際、防災リーダーだけでなく「希望者」としより多くの生徒に防災について関心を持ってもらえるように働きかけをしていきたい。